

### 【8期計画 P.57】

#### (1) 医療・介護関係者の連携の深化

##### ① 研修会や事例検討会の実施と取組の支援【拡充】

専門職の関係構築を進める際のきっかけづくりとなる研修会や事例検討会の開催について、引き続き支援します。市が主催する研修会や事例検討会については、市内の関係団体等が主催する研修会等の内容や、市内外の動向を踏まえて、これらを補完できるテーマを選定し実施します。

また、市内で実施される研修会等については、市のホームページへ掲載し周知するとともに、専門職や職能団体の既存のメーリングリストなど一括の送信ツールを活用し、より多くの専門職へ周知できるよう支援します。

#### 〔進捗状況〕

### 6 医療・介護関係者向けのコミュニケーションツールの創設について

これまで職能団体等などに限られていた情報共有の枠組みを、医療と介護に携わる関係者に広げるため、出雲市在宅医療・介護連携支援センター（愛称：ルピナスセンター）では、コミュニケーションアプリ LINE（ライン）を活用した情報共有、個別相談の利用環境を整え、10月1日から運用を開始しました。

今後、多くの医療と介護に携わる人に登録を促していくとともに、有益な情報を発信するため、情報提供の呼びかけも行っていきます。

#### (1) 具体的な活用方法

##### ① 情報発信（メッセージの投稿）

登録者（本 LINE に友だち登録をした医療・介護関係者）に、下記の情報を発信します。

- 医療・介護関係者向けの研修会・講演会や交流イベントなどの情報
- 職能団体の機関紙など、他の職種のことかわかる情報
- 在宅医療・介護連携支援センターが調査した医療・介護資源などの情報

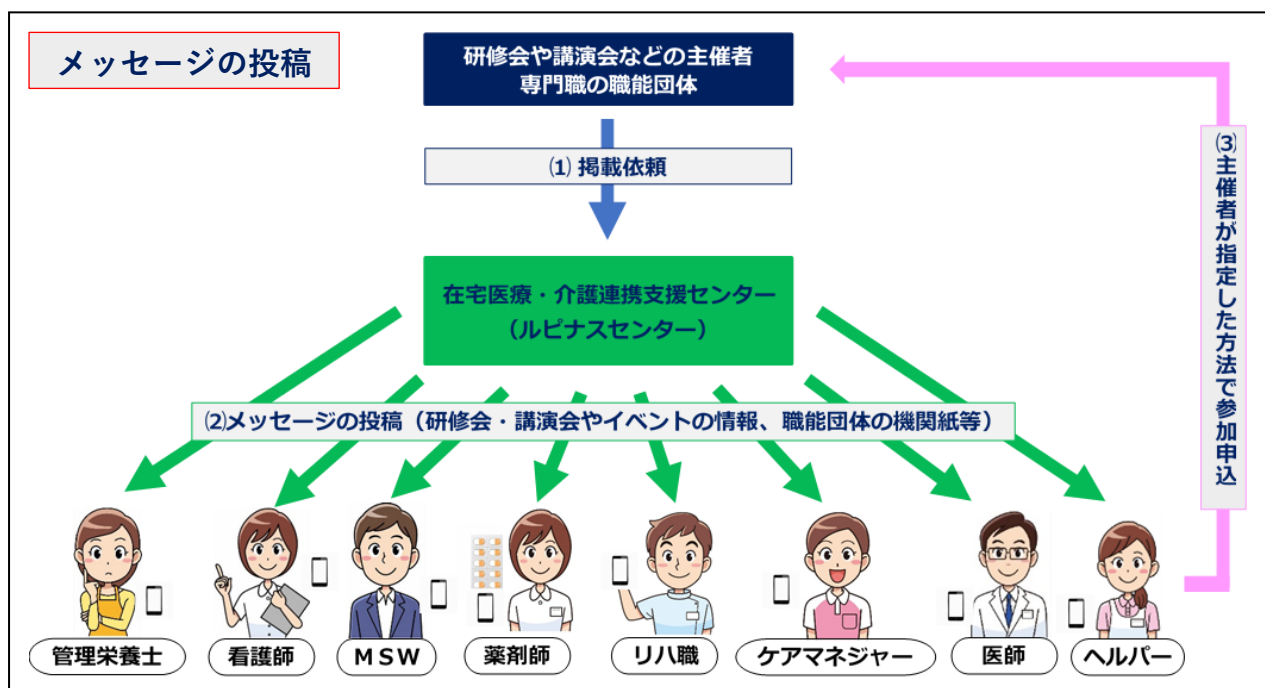
##### ② 広範囲への周知（タイムラインへの投稿）

登録者の友だちにも周知できる機能を活用して、広く市民の方にも参加してもらいたいイベントなどの周知を行います。

##### ③ 在宅医療・介護連携支援センターへの問合せ（チャット機能）

電話で受け付けている医療・介護関係者からの問合せを、LINE でも受け付けます。このことで、時間を問わず問合せができることや些細な問合せも気軽にできることで、支援センターに相談しやすい環境をつくります。

◆活用イメージ



(2) 登録者の状況 (令和3年10月25日現在)

○登録者数 225人

○内訳

職種	区分1	区分2
医療系	70人	医師9人、薬剤師9人、保健師4人、看護師29人、理学療法士10人、作業療法士5人、視能訓練士1人、
介護系	81人	歯科衛生士1人、MSW9人、管理栄養士8人、
行政職	15人	施設長3人、管理者4人、主任介護支援専門員3人、介護支援専門員52人、介護福祉士11人、
不明	59人	介護職員3人、相談員2人、福祉用具専門相談員1人、事務職員6人、社会福祉士7人

## 【8期計画 P.66】

### (4) 認知症支援ネットワークの拡充

#### ① オレンジサポーターの養成【拡充】

認知症サポーターのスキルアップを目的とした講座として、地域・企業におけるオレンジサポーター養成講座を、引き続き実施します。

加えて、より柔軟に認知症の人やその家族及び地域のニーズに対応できるよう、「個人版」のオレンジサポーター養成講座を実施します。講座修了後に支援活動を希望する者に対しては、市がコーディネートし、認知症カフェ等で活動してもらうなどの支援を行います。

## 〔進捗状況〕

### 7 オレンジサポーターの養成

認知症サポーターのスキルアップを目的とした講座として、「オレンジサポーター養成講座」を開催しています。

#### ◆開催状況

対象団体等	開催日	養成者数
アクサ生命保険（株）山陰支店出雲営業所	5月～8月	25名

#### ◆「個人版」講座の開催予定

広報いずも（1月号）等で周知し1月開催予定）

	日程	内容	講師等
STEP 1	月 日	認知症の基礎知識	医師等による講義とグループワーク
STEP 2	月 日	認知症の人を支える仕組み・ 認知症カフェの取組	認知症カフェの見学と説明
STEP 3	月 日	地域で認知症の人を支え心構え・ 認知症を受け入れる文化づくり	認知症キャラバンメイト等による講義とグループワーク

「個人版」講座については、本年2月に認知症カフェの見学を含むプログラムにより開催し、10名が参加しました。

## 【8期計画 P.67】

### ② 認知症カフェの開設【拡充】

これまでに市内に6か所の認知症カフェが立ち上がっています。今後は、各カフェの代表者による連絡会を定期的に開催することで、市や認知症コーディネーター等との情報共有を強化します。また、引き続き、認知症カフェの新規立ち上げの支援を行うとともに、オレンジサポーターとの連携を強化します。

## 〔進捗状況〕

### 8 認知症カフェの代表者連絡会の開催

認知症カフェの代表者の情報交換の場として、年2回の連絡会開催を計画し、10月5日に1回目を開催しました。

活発な情報交換が行われ、それぞれの今後の活動の参考になるとの意見があったことから、2月頃に2回目を開催したいと考えています。

### 9 認知症カフェの新規立ち上げの支援

認知症の人や家族が情報や悩みを共有し交流できる場として、関心を持たれた団体等に声を掛け、「認知症カフェ」の立ち上げを支援しています。

今年度は、これまでに次の2か所のカフェが立ち上がりました。

#### ◆市内の新たな認知症カフェ（令和3年8月現在）

地区	名称	主催	開催場所	開催日・時間
出雲	だんだん Café	出雲医療看護専門学校	専門学校内 (今市町)	(5月から) 学校行事に合わせて開催
出雲	すまいるカフェしあん	ライフサポートモール 蒔庵	ライフサポートモール 蒔庵(長浜)	(7月から) 毎月開催

**【8期計画 P.67】**

**③ 小地域単位のネットワークづくり【拡充】**

各地域においては、地域版オレンジサポーター養成講座を、引き続き実施します。また、在宅医療・介護連携で実施している「在宅医療座談会」のテーマに「認知症」を加えるなど、地域のサロン等小単位の集まりを対象とした普及・啓発の働きかけを行い、地区社会福祉協議会と連携して小地域単位のネットワークづくりを推進します。

**〔進捗状況〕**

**10 「認知症」をテーマにした「在宅医療座談会」の開催**

「在宅医療座談会」は、在宅での療養が必要となったときに必要なサービスを適切に選択できるように、医師、看護師及びケアマネジャー等を講師として、在宅医療に係る複数のテーマを設定して進めています。

この座談会について、今年度から「『認知症』のこと、認知症の人との接し方について」(講師：認知症地域支援推進員・認知症キャラバンメイト)をテーマの一つに加え、各地区の社会福祉協議会や高齢者クラブ等の要請により、小単位の座談会を開催しています。

顔見知りの中で、身近な話題について話し合うことにより、地域の見守りや認知症への理解が一層深まることを期待しています。

**◆認知症をテーマにした在宅医療座談会の開催状況**

団体名（地区名）	開催日	参加者数
西田地区民生委員会（西田地区）	10月7日	（延期）

**【8期計画 P.117】**

(地域ケア会議を活用した地域課題の把握と解決への取組の推進)

**7 地域ケア個別会議等から抽出された主な地域課題****(1) 地域性にかかわらない高齢者に共通する課題**

項目	内容
	(略)
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>ごみ出しが困難な高齢者への対応</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集積所までごみを運べないこと。(集積場までの距離、ごみの重量等)</li> </ul> </li> <li>○自炊できない高齢者の食事確保(配食サービス) <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格が高いこと。(特に治療食)</li> <li>・孤食で楽しみがなく続かないこと。</li> </ul> </li> </ul>
	(略)
認知症	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>認知症の早期診断・早期治療の必要性の啓発</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期診断、早期治療の必要性が本人や家族に理解されにくいこと。</li> <li>・認知症の人の見守りや、話し相手が不足していること。</li> </ul> </li> </ul>
	(略)

**(2) 地域特有の課題(山間部や沿岸部等地理的条件によって生じる課題)**

項目	内容
	(略)
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>食料品・日用品等の買い物がしやすい環境整備</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な地域に店舗が少ないこと。</li> <li>・配達や代行もあるが自分で選ぶというニーズを満たさないこと。</li> <li>・大規模店では敷地が広く買い物がしづらいこと。</li> </ul> </li> </ul>
	(略)

**〔進捗状況〕****11 ごみ出しが困難な高齢者への対応**

たすけあい活動団体が、高齢者宅の草刈等を実施した際に、発生する刈り草や剪定くずの可燃ごみ処理施設での処分について疑義があり、事業系一般廃棄物としての取扱い等について正しい理解を深めるため、住民参加型在宅福祉サービス団体連絡会(8月24日)にて説明し周知を図りました。

参加されていた団体からは、「これまでよくわからなかった内容が、わかりやすく整理してあり、理解できた」、「明日からの活動の参考になる」との意見がありました。

## 12 認知症の早期診断・早期治療の必要性の啓発

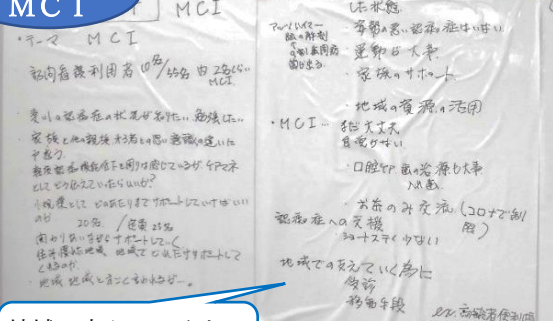
認知症に関わる多職種が、認知症について語り合う「斐川地域認知症フリートーク」（8月18日）を開催しました。この中で、「軽度認知障害（MCI）」、「若年性認知症」、「徘徊」の3つのテーマから希望するものを選んで、地域内の介護保険事業者、医療関係者、薬剤師やあんしん支援センターが意見を交わして理解を深めました。まとめの会では、出雲市認知症高齢者支援強化検討会委員の高橋幸男医師、深田倍行医師から講評をいただき、全体で情報共有しました。11月11日には、大社地域にて開催します。

また、働きざかりの介護者が集う「認知症家族の集い」（7月24日）では、若年性認知症コーディネーターの黒松基子氏を交え、仕事を続けながら家族を介護する大変さを共有する中で、早期診断により家族が的確な情報を得ながら認知症状への理解を深めることが、適切な介護につながることを改めて認識しました。会議後には、参加者が連絡先を交換されるなど、交流を深める集いとなりました。

広く市民に向けた啓発については、認知症ハンドブックを各コミュニティセンターや商業施設に配置するとともに、「認知症初期集中支援事業」について、広報いずも（5月号）に特集記事を掲載しPRしました。引き続き、多職種との連携を強め、認知症の早期診断・早期治療につながる取組を進めます。

### ◆認知症フリートークでの意見

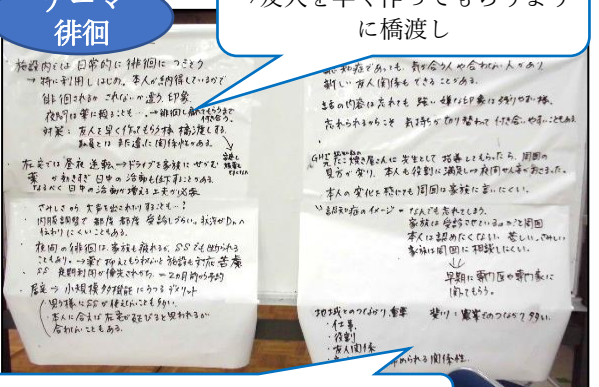
#### テーマ MCI



地域で支えていくために移動手段が重要

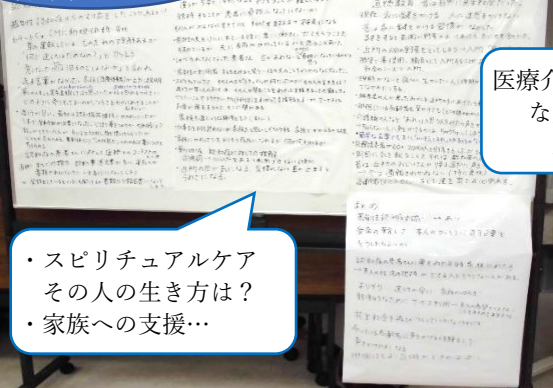
- ・まだ大丈夫…
- ・自覚がない
- ・進行が早い印象
- ・第2の人生スタートの時期に発症⇒辛さに寄添う難しさ

#### テーマ 徘徊



- ・施設の利用し始めに徘徊多い⇒友人を早く作ってもらうように橋渡し
- ・地域との繋がり、仕事・役割・友人
- ・家族が助けを求められる関係性

#### テーマ 若年性認知症



- ・スピリチュアルケア その人の生き方は？
- ・家族への支援…

#### 深田医師・高橋医師 講評



医療介護関係者がいろいろな声を出すことが重要だと思う

ケアマネジャー7名、生活相談員3名、社会福祉士2名、薬剤師・看護師・ヘルパー・介護職員各1名、出雲市認知症高齢者支援強化検討会委員5名、あんしん支援センター7名、医療介護連携課5名の計33名参加

### 13 食料品・日用品等の買い物がしやすい環境整備の支援

店舗が減少している平田地域の海岸部（鰐淵・北浜・佐香・伊野地区）において、移動販売車の営業を検討している業者があったため、生活支援コーディネーターを中心に、平田高齢者あんしん支援センター、出雲市自治振興課中山間地域振興室地域支援員とで、地域情報の共有を図りました。

この中で、生活支援の観点から、主に生鮮食料品の確保に課題のある地区が見られ、かさ張るトイレットペーパーや重さのある商品について移動販売の需要が見込まれることなどを話しました。当該業者は、各地区コミュニティセンターを通じて、既存店舗や移動販売車の営業状況を把握したうえで、カバーされていないエリアを主体に事業を開始されています。